
とあるこいのものがたり

カクノシンの仇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるこいのものがたり

【Nコード】

N7275Z

【作者名】

カクノシンの仇

【あらすじ】

馬鹿な彼と意地っ張りな彼女のお話。

「先生、落ちないオトコをオトすテクを教えてください」

「それでね、茜ってば」

私は、話の腰を折る奴が嫌いだ。

誰でもそうだと思うけど、一番盛り上がったところで水を差すなんて、テンション駄々下がりも良いところである。

「ねえ、聞いている？」

無視。

「……」

ここで、聞いているよ、とでも言えば修復可能なのに。

あたしの目の前の男は、こっちを見てすらないのだ。

端正なその横顔は、微かな嫉妬を覚えさせる。

ノンフレームの眼鏡が映しているのは、一体何なのだろう。

鼻から盛大に息を吐き出して、あたしもそっぽを向いた。

教科：小悪魔編

『先生、落ちないオトコを落とすテクを教えてください』

「でね、その友だち茜って言うんだけど。おかしくない？」
そう言って、あたしは、目の前の男の子をじっと見つめてみる。男の子の瞳の奥が笑って、目が三日月型になった。

「漫画みたいだな。で、どうなったの？」

好感触。

「うん。この後がおもしろいんだけどね」

身を乗り出して熱心にこちらを見ている彼は、中々の男前。ダークブラウンに染めた髪に、片耳に二つのピアス。顔立ちも整っているし、背だつて低くない。

確か法学部で、優良物件として女の子達の中では結構有名だ。

彼女をとっかえひっかえってというのが玉にきず、とも言われてるけど。

「もったいぶらないでさ、教えてよ」

無邪気に笑って、軽い上目遣いで見上げられる。

こうやって女の子と仲良くなるのかと、思わず感心してしまう。

と同時に、こんな風にノってくれればいいのに、と思わず思いため息が出てしまった。

「え？どうしたの？」

驚いたように、男の子が眉を上げる。

そりゃそうだろう。今の今まで楽しく会話していた相手が、突然重苦しいため息を吐いたら誰だって不審に思う。

「あ、ごめん。ちょっと酔ったかも」

嘘だ。本当は全然酔ってなんかいない。

ビール一杯とチューハイ一杯しか飲んでいないのに、どうやって酔うというのか。

「へえ、アイちゃんって酒弱いんだ」

「うん、」

また、嘘を吐いた。

こんな嘘、あたしとよく飲みに行く女の子達に聞けば直ぐわかってしまう。

真っ赤な嘘だって。

「俺もあんまり強くないんだよね。ねえ、二人でどっかぬけださない?」

ナイシヨ話をするみたいに、男の子があたしの方に顔を近づけてくる。

早すぎるだろ。まだ飲み会始まって三十分しか経っていない。

「うん、えっと、どこに行く?」

この彼のタイプは、大人しい感じの従順な女の子だ。あまり気が進まないけれど、あたしはとりあえず従うことにした。

「カラオケ、とか」

みえみえ、だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7275z/>

とあるこいのものがたり

2011年12月24日03時46分発行